

法華経のこころ

大黒喜道師

今日は「法華経のこころ」について何か話をしようというのですが、ご存知の通り、大聖人は「法華経題目抄」の初めに、この信仰ではたゞ法華経のこころを知りなすべしと南無妙法蓮華経の五十七字の題目をたゞ一遍ならぬと唱えることがあったならば、その人は必ず成仏することが出来ることを仰せなすべしと。

「法華経のこころ」といふ言葉、言ひまわれば理屈など別に分かるかも知れない。この妙法を少しも疑う心なく信解する一念の心があれば、それで即身成仏が叶うと云うことになりませう。

和歌をめぐる二人の学者の意見

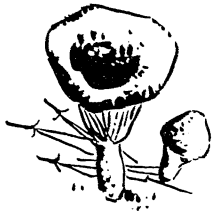
さて今年の四月十日に京都大学名誉教授の桑原武夫さんとがくなられました。桑原さんの専門は、応酬フランス文学ですが、その学問の対象は広く文化一般におよび、特に明治以降の日本の近代化という問題を追求されておりました。

その桑原さんが第二次世界大戦で日本が敗れて一年くらいたった頃、「第一芸術」という論文を発表して当時の世間を大変さわがせたことがありました。

この論文は一体どんな内容だったのかと言いますと、俳句とか短歌という日本古来の歌といふものはあくまでも芸術でしかなく、それをもし芸術と呼ぶならば、第一等の芸術に及ばない第二等の芸術であるといふことなのです。

「法華経のこころ」といふ言葉、言ひまわれば理屈など別に分かるかも知れない。この妙法を少しも疑う心なく信解する一念の心があれば、それで即身成仏が叶うと云うことになりませう。

講演



そのような中で、民俗学の学者で折口信夫という人がおりました。この人は民俗学研究のかたわら、自らも味わいのある和歌をよみ、その方で

は釈迦空という名前で大変有名な人です。この人の弟子で評論家の山本健吉さんによれば、折口さんやはり桑原武夫さんの「第一芸術」論に大変刺激されて和歌の本質とか意義といふのは、体何なのかといふことをずっと考え続けていたそうです。

折口さんは昭和二十八年に亡くなっていますが、その亡くなる半年位前、その自ら考へて書いた所を著しています。それは当時のラジオ放送を通じて行われたのですが、内容はどう行われたのかと言いますと、桑原さんいふ「第一芸術」論に、桑原さんは古い伝統を持つ和歌といふ芸術を私達が生きていくのに有効な思想を何ら持たない第一芸術であるといふ切ったので、それに対して折口信夫さんは桑原さんの言う「生きて行くのに有効な思想を何ら持たない」といふ、その思想など持たない所にこそ和歌の本質といふか、その意義があるのだといふ、非常に変わった反論をして居るのです。

つまり、三十一文字の和歌の中に、しっかりと内容や思想が無いといふ所をどうも本末あるわけがない、と述べ

純一無二の信をつかむ

世間的効果を離れて光る真実

非常に鮮明なイメージです。白い雪を手を平ですくうイメージには、私達のこころが映っています。



「法華経のこころ」です。(大安寺総会にて)

によって私達は、大聖人の内証を頂戴することが出来るのです。更に、この仏様から授けられた五十七字の題目が一つの音楽として私達の胸の中に沁み込んでいく。と同時に私達の心がその題目の沁み込みを感じて非常に清らかな印象を受けるのです。これは正しく私達凡夫成道の姿である。南無妙法蓮華経の題目の働きではないかと私は思うのです。

折口さんは次のような譬え話をしています。「たとえ雪が降って、それを手に握ってキユッと握りしめると水になって手の股から消えてしまふ。それが短歌の詩らしい点だったのです。」

と云うキユッと握りしめる。するとその時、冷たいというのと共に、またそれと別個の不思議な感覚が、一瞬私達の胸をつきまわす。雪はとけてしまふ、水となって流れてしまふ、手の中には何も残らないけれども、私達の心には一種不思議な清らかさが残っている。五十七字の妙法の働き、そしてそれを受けて自ら口に出した時の微妙な瞬間の状況が見事に表わされていると思えます。

効果のあるなしですべてを判断すべしと云う。私達凡夫は煩悩の中から生まれてきて、一生涯欲をかきまわして生きていく存在です。生きていくという気持でそのものが既に欲ですから、欲は私達が生きていくには必要不可欠なものと言えます。しかし何と云ってもその最も大きな特徴は、充たされるというところが決まらず、という所があります。ある程度はモノがあっても必ずしも一杯欲しいと思ふ。モットイ所へ行キタイ。モットイ便利ナホウカイイ。モットイ楽シイ。モットイ簡単ニナラナイモノカ、等々。

果たしてこの信仰は効果があるのか。この宗教は一体何の効き目があるのだろうか。かくして、日本人の信仰心は、どうのこうのと言われながら、病氣治しなどの御利益信仰をかかげて登場する新興宗教は決して跡を断つことがないのです。

果たしてこの信仰は効果があるのか。この宗教は一体何の効き目があるのだろうか。かくして、日本人の信仰心は、どうのこうのと言われながら、病氣治しなどの御利益信仰をかかげて登場する新興宗教は決して跡を断つことがないのです。

果たしてこの信仰は効果があるのか。この宗教は一体何の効き目があるのだろうか。かくして、日本人の信仰心は、どうのこうのと言われながら、病氣治しなどの御利益信仰をかかげて登場する新興宗教は決して跡を断つことがないのです。

果たしてこの信仰は効果があるのか。この宗教は一体何の効き目があるのだろうか。かくして、日本人の信仰心は、どうのこうのと言われながら、病氣治しなどの御利益信仰をかかげて登場する新興宗教は決して跡を断つことがないのです。